

特別支援教育コーナー

個別の教育支援計画の効果的な活用を

各園・学校において、個別の教育支援計画（以下、支援計画と記す）の作成が進められていますが、作成後の活用については、まだまだ工夫していく必要があります。ここでは、支援計画にまつわる事例をもとに、作成時に気を付けたいことや、作成後の活用方法について考えてみたいと思います。

個別の教育支援計画にまつわる以下の事例について考えてみましょう。



支援計画と指導計画の違いを説明します。

事例1

支援計画を作成する際に、保護者から聞き取りを行い、生育歴や保護者のニーズを書き込んだが、でき上がったものを保護者に見ていただけていない。



支援計画は、本人・保護者のものです。作成後には、必ず保護者に見ていただき、修正があれば赤字で追記してもらいましょう。

事例2

小学校から引き継がれた支援計画がファイルに綴じられたままになっており、中学校で新たに作成されていない。



校種が替わった場合、前籍園・校での情報をもとに、支援計画を新たに作成し直します。

事例3

卒業前に保護者から、支援計画を進学先に引き継いでほしいと言われた通常学級担任。支援計画が作成されていたことをその時初めて知った。



支援計画の作成は、3年程度の長期的な視点で行いますが、評価や追記等は、1年ごとに行います。また、園・校内での共有や引き継ぎが大切です。

個別の教育支援計画とは

- ・学校生活だけではなく、家庭生活や地域での生活も含め、幼児期から学校卒業後までの切れ目ない支援を行うため、家庭や関係機関等と連携し、様々な側面からの取組を示した計画

個別の指導計画とは

- ・学校での具体的な指導の目標や内容、配慮事項などを示した計画

支援計画は、高校・大学進学や就労の際にも活用できるツールです。保護者の十分な理解のもと、切れ目ない支援に向けて、作成・活用を進めていきましょう。



個別の教育支援計画を支援ツールとして活用しましょう！

個別の教育支援計画の活用例

役割	活用例
<p>校内での連携ツール 保護者・関係機関等との連携ツール</p>	<p>○保護者と学校職員、医療・福祉等の支援者が支援目標や支援内容等について共通理解をし、連携を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★校内のケース会議の資料として ★保護者・関係機関等と行う支援会議の資料として ★通級指導教室担当者や指導目標や支援内容の共通理解を図るために ★外部専門家から助言をもらうための相談資料として
<p>コミュニケーションツール</p>	<p>○保護者や関係者とコミュニケーションを深め、前向きな意見交換を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★保護者・本人のニーズの把握や合理的配慮についての検討を行うために ★支援会議に出席できない関係者から意見をもらうための資料として ★発達段階によっては、本人の意思を確認するために
<p>進学先への引き継ぎのためのツール</p>	<p>○卒園・卒業後の切れ目ない支援のために進学先の学校等と共通理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ★進学先への引き継ぎ資料として ★進学試験における特別な配慮を申請する際の資料として

個別の教育支援計画は、園・学校・保護者・関係機関等が、子どもの教育的ニーズや支援目標等を共通理解して指導・支援を充実させていくための大切なツールであることを認識し、様々な場面で積極的に活用していくことが大切です。園・校内で作成されている個別の教育支援計画を共有し、活用に向けて園・学校としての組織的な取組を進めていきましょう。